

# つきがた まちなか 歴史探索 マップ

## 修武館



修武館は、看守の剣道の修練の場となっていました。明治15年樺戸集治監の設置間もない頃、月形潔典獄に請われて元新撰組二番隊長永倉新八が剣術師範として、この地で剣術を教えていました。

永倉は、月形に赴任する際旧幕臣の大物で書家としても知られている山岡鉄舟に揮毫(きごう)を請い「修武館」の額を贈られ、以来樺戸集治監の演武場は「修武館」と呼ばれるようになりました。

※揮毫(きごう)とは、知名人が依頼されて毛筆で文字や絵をかくことをいいます。

## 監獄波止場跡

樺戸集治監の設置当時、川は重要な交通路となっていました。囚徒や移住者は外輪船を使って石狩川をさかのぼり月形にやってきました。この波止場は、監獄汽船や石狩川汽船といった船会社の船が人々の往来や物資の輸送などに利用していましたが、道路や鉄道の開通によって昭和10年で廃止となり47年間にわたる水運も姿を消しました。人々はこの場所を監獄波止場と呼びました。



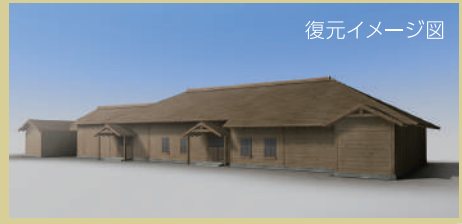
当時、川は重要な交通路でした

## 職員官舎

樺戸集治監の設置に合わせて北海道開拓のため本州から月形に囚徒が続々と移送される中、監視する看守たちも増員し職員の官舎も建設され、この周辺には、長屋の職員官舎が数多く建てられました。1戸あたりの面積は10坪(33㎡)程度の狭い官舎が平均的な看守の住居となっていました。

## 樺戸集治監「典獄官舎」

当時絶大な権限を有していた集治監の典獄官舎は、明治14年9月3日、樺戸集治監の設置に合わせて建築され、桁葺き平屋建て約83坪(273.9㎡)の広さがありました。現在の住宅と比較しても大きな住宅であり、当時の一般の職員官舎は10坪(33㎡)から20坪(66㎡)程度のものでしたので、4倍以上の大きさであったことがわかります。



復元イメージ図



## 円福寺

囚徒たちの労役は、道路開削や農地開墾だけではなく、建築にも及びます。囚徒たちが手掛けた建築物の一つがこの円福寺です。円福寺は、明治20年第2代安村典獄の肝入りで創設された真宗大谷派中嶋布教所が前身です。明治29年第4代石沢典獄の好意と信徒の協力により、囚徒の棟梁と囚徒らにより本堂が建立されました。円福寺には石沢典獄の書や当時の彫刻が残されています。



囚徒たちが建築を手掛けた円福寺



地図上のマークを手掛りに…  
**月形の歴史探索の旅に出よう!**

国道 275 号

